

## ◎ 美術館情報

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの美術館等で、臨時休館やイベントの休止、展覧会の中止や開催期間の変更、および入館方法等が変更になっています。

状況が日々変動しているため、各施設の公式ホームページなどで最新の情報をご確認ください。

### 1. 石水博物館【三重・津】 (<http://www.sekisui-museum.or.jp/exhibition/kaisaicyu.html>)

10月1日(金)～12月5日(日)

特別展：新・石水博物館開館10周年記念特別展 千歳山主 川喜田半泥子—名品と歩んだ10年—  
本展では、開館10周年を記念し、新収蔵、新寄託の作品を多数含む、半泥子の陶芸・書画作品および関連資料などを全館に展示します。秋が深まりゆく静かな千歳山の森の中で、山の「主」である半泥子の遊び心、おもてなしの心をお楽しみください。



### 2. 国立工芸館【石川・金沢】

(<https://www.momat.go.jp/cg/exhibition/twelve-hawks-and-crafts-in-modernizing-japan/#section1-1>)

10月9日(土)～12月12日(日)

特別展：国立工芸館石川移転開館1周年記念展

《十二の鷹》と明治の工芸—万博出品時代から今日まで 変わりゆく姿



明治ほど、その工芸から「熱量」が伝わってくる時代はありません。器の表面から飛び出すほどの彫刻的な細工がほどこされた陶器や金属器、まるで生きているかのようにリアルな表情を見せる動物の置物など、私たちの視線をとらえてはなしません。そこには江戸から明治へと社会構造が大きく変化した時代にあって、どうにか活路を見出そうとする工芸家たち

の必死さがあらわれているようです。ひるがえって現在、急速に進むデジタル化のなかで、私たちの生活も大きな変化の只中にあります。インターネットによる情報化や新たなデジタル機器は、モノづくりの領野にも確実に影響を及ぼしています。社会構造の変化に、工芸家たちはどのように立ち向かってきたのでしょうか。本展では、明治から現代までの工芸作品を通して、変化し続ける工芸家たちの姿を見つめます。

### 3. ヨックモックミュージアム【東京・港】 (<https://yokumokumuseum.com/1000/>)

10月26日(火)～2022年9月25日(日)

企画展：「地中海人ピカソ—神話的世界に遊ぶ」展

ヨックモックミュージアムの開館記念第二弾として、スペイン美術史の第一人者で早稲田大学名誉教授の大高保二郎氏を監修者にお迎えし開催します。生涯を通じて「地中海人」であり続けたピカソ。第二次大戦後に地中海沿岸に戻ってきたピカソが作陶のモチーフとしたのは、地中海世界に古代から伝わる神話世界の住人たちや身近な自然界の動物たち、愛する闘牛などでした。本展では「地中海人」であり続けたピカソの在りようを、彼が取り上げたモチーフをもとに読みときます。

地中海人ピカソ 神話的世界に遊ぶ

Picasso The Mediterranean: Enjoying the Mythical World

2021 10.26 TUE -  
2022 9.25 SUN

ピカソが世界にまいた魔法  
Picasso's Magic  
Spreads Throughout the World

パブロ・ピカソ、ピカソ—あるまじき天才の生涯、1959年  
©2021 Succession Pablo Picasso-BDF/JAPAN

